50回記念の子どもすもう大会

新河岸小に子ども力士集結

9月5日、板橋区青少年委員第5ブロック主催の「第50回記念大会子どもすもう大会」が、新河岸小体育館で開かれた。

同大会は今回で50回目を迎える歴史ある大会。今年は高島平・舟渡・蓮根地区から41人の子ども力士が参加した。来賓として尾科善彦板橋副区長も訪れ、会場には参加者を優に超える約100人の観戦者が来場した。

大会は、常盤山部屋から湊川親方（元大関の貴景勝）が部屋を引き継いだ湊川部屋が協力。貴大将さん、新隆山さんの2人の力士を招き、地区のジュニアリーダーが受付、記録、呼出、審判などを務め大会をサポートした。また、第十七代常盤山親方と、以前この大会をサポートしていた大旺さんも久しぶりに参加した。



6人掛かりでもびくともしない新隆山さん。左は久しぶりに参加の大旺さん

まずは大旺さんが前に立ち準備運動。次に2人の力士が舞台に上がり、大きな体で四股を踏んだ後は、股割り。お腹が床にペタッと付く姿に会場から「おー、柔らかいなー」という驚きの声も。

取組では東西に分かれての個人戦が行われた。行司を務める大旺さんの「はっけよい、のこった」の合図で体をぶつけ合うと、押し出し、寄り切り、上手投げと技を繰り出し、児童たちは真剣勝負。勝って喜ぶ姿や負けて悔しがる姿、そのどちらにも会場からは大きな声援や拍手が送られた。

その後は児童たちが2人の力士に「ぶつかり稽古」として次々に挑戦。片手でまわしをつかみ体ごと持ち上げる力士をなんとか力を振り絞って押し倒した。

そして特別に2人の取り組みも披露。"本物の力士"がぶつかり合う音と迫力に会場中が見入っていた。

閉会式では表彰式や写真撮影も行われ、受賞した児童は満面の笑みを見せていた。

高島平新聞　第675号　令和8年9月15日刊行